

REEP : 川がつなぐ人と地域 生態系サービスの賢明な利用にむけた普及啓発活動

*市川智子（環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室、
元 JICA 長期専門家：2011 年 3 月～2012 年 9 月）、
木下愛（農業、元青年海外協力隊員（JOCV）：2010 年 6 月～2012 年 6 月）

マレーシア国サバ州にあるクロッカー山脈国立公園（Taman Banjaran Crocker: TBC、139,919ha）及びその周辺地域は、ボルネオ生物多様性・生態系保全プログラムフェーズ II（BBECII、2007 年～2012 年）でユネスコ「人間と生物圏プログラム（MAB）」の生物圏保存地域として登録作業が進められた、サバ州の水源地としてとても重要な地域である。ここを水源とする河川の保全を流域住民の参加・協力のもとに行っていく仕組み作りの第一歩として、サバ州公園局、灌漑排水局、教育局、JICA など BBECII に関わる組織を中心に、学校教育を通じて普及啓発し、住民の保全への参加を促す「川の環境教育プログラム（River Environmental Education Programme: REEP）」の開発と 4 回の実施に関わった。

プログラムでは、流域管理の概念を中心に、川と人の生活との関わりに焦点を当てた。8 郡 1 市にまたがる TBC の郡ごとに主要・重要な川を選び、TBC スタッフらと共に郡庁や地域の有力者との協議を重ねながら川や水に関わる観察資源・人的資源を探し、涵養林の役割、川からの恩恵、人から川への影響、川が支える生物多様性などを総合的に学び、表現するプログラムを組み立てた。

プログラムには流域の 5 つの小学校から児童と先生を招待し、少人数のグループに分け、それぞれにファシリテーターがついた。参加者は、TBC 内の森から川が始まりマングローブの海に流れこむまで、川の観察（physical, chemical, biological checks）、現場（灌漑排水設備、漁業資源保護地域など）取材、講義、討議や発表を重ね、川のダイナミックなつながりと変化を体感し、川と自身のつながりを考え、川を守るためのアクションプランを作成した。この活動を通して、参加者や関係者による川や水についての理解向上、ステークホルダーの交流・協働、地域資源の発掘と利用促進がはかられた。

このプログラムが効果的だったのは、川を流域として捉え、さまざまなステークホルダーの参加・協働を実現したことによる。学校ごとに立てたアクションプランも、児童と先生だけでなく地域住民代表が加わって一緒に考えることで、実現しやすいものとなった。MAB 登録の実現とともに、保全計画に沿った、より効果的なプランが建てられるよう改善していくことが、プログラムの今後の課題となる。

（関連資料は http://www.bbec.sabah.gov.my/phase2/wn_2012_article_72_en.php よりダウンロード可能）